

2つの神話

「社会福祉は人間をかえって不幸にする。その証拠に、スウェーデンの老人の自殺率は世界一だそうだと日本で何度か聞かされた。「老人福祉が豊かなのをいいことに、こどもは親に冷たい。それで孤独感が強まって……」とか「生活がラクになればなるほど、『精神の豊かさ』がなくなるのです」とか、もっともらしい理由もついていた。

発端は米紙の誤報

しかし、「老人自殺率世界一」は事実ではなかった。それはつくられた“神話”であった。

「日本のおとしよりの自殺率の方が、スウェーデンよりずっと高いのですが……」とストックホルム市社会福祉審議官のベンネルンド女史は肩をすくめた。

デマの火ダネは、故意か過失か統計を読みまちがえたアメリカの新聞。それをアメリカの国際的な雑誌が転載した。そして、アイゼンハワー大統領が演説に引用、あっという間に世界中に広まった。

「アイクは、その後、誤りに気づき、退任後スウェーデンを訪問したとき首相にあやまりました。でも、大統領でなくなっていた彼の言葉は報道されませんでした。で、はじめの演説の孫引きや、ひ孫引きがまだ広まり続けているのです」とベンネルンドさんはいう。

自殺率の真相一。

たとえば、65歳以上のおばあさんの自殺。日本のおばあさんは、毎年2千人に1人ほどの割りで自殺し、世界第1位。一方、スウェーデンはその3分の1以下。各国の順位で10位にまでにはいっていない。おじいさんも日本が上位。

つくられた“神話”は、もう一つあった。「スウェーデン人はみんな重税にあえぎ、福祉はもうゴメンだといっている」とか「外国へどんどん逃げている」とかいう話。これもアメリカの通信社が世界中にひろめた。

税金は高いけれど

スウェーデンの福祉は税金でまかなわれ、その税金はたしかに高い。

まず国税。所得によって10%から54%。それに郡税が8、9%（郡税の8割は医療に使われる）。市町村税は場所によって違うが15－20%、そのうえ健康保険料が年270－510クローネ（1万7,000－3万3,000円）。一高

額所得者だと80%を税金にもっていかれる。それに、買物をすると、物品税が15%、だから、日本で暮すことになったスウェーデン人たちは、はじめは「税が安い、物価も安い、住みやすい」と感激する。しかし、日がたつと……こどもの教育、住宅、医療のために貯金しなければならぬことに気づく。そのような費用をたせば、中産階級の場合はスウェーデンの税金と少しも変らぬ額になることにも。

「税が不満で高額所得者が外国に逃げることはあります。しかし、教育は大学まで無料。老いても病んでも安心。中流以下の人間にとっては高い税金に見合うものがかえってくる感じです」とスウェーデン人と結婚してウプサラに住んで2年のユキヨ・バレンシュトロームさんやストックホルム生活5年の竹崎孜氏はいった。

医療は公的なもの

スウェーデンの社会民主党政権は、その名からくるイメージと違い、資本主義を肯定し、むしろ活用している。この国の産業の95%は資本家が所有している。「ただし」と社会大臣のアスプリング氏はいった。「医療は私的なものでなく、公的なものでなければならないと考えます。医療で利潤をあげるという日本について意見をいうのは控えますが……」

老人の自殺

最も新しい世界保健機関（WHO）の統計によると、65歳以上のスウェーデンの老人の自殺は10万人に対し男49.2人、女14.0人。これに対し日本は男56.8人、女49.1人。

日本の自殺は外聞をはばかり「病死」「事故死」と届けられることもある。だから、実際はこれより多い。一方、スウェーデンでは、死体解剖が一般的に行われており、登録番号で追跡されるので、統計はより正確。日本などより自殺者の数は多めに出る。